

2012 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 <input type="radio"/> 中世史料領域 <input type="radio"/> 近世史料領域 <input type="radio"/> 海外史料領域 <input type="radio"/> 複合史料領域 <input type="radio"/>
2.申請課題名 春日社旧社家「大東家史料」の調査・撮影
3 新規・継続の別（丸をつけてください） 新規 <input type="radio"/> 継続 <input type="radio"/>
4.申請者 古代史料部門・助教・藤原重雄
5.所内共同研究者 中世史料部門・准教授・末柄豊 近世史料部門・助教・及川亘 史料保存技術室（写真）・谷昭佳 同・高山さやか
6.希望する研究期間 2012 年度（1 年間） ※2010 年度より 2 年間の継続課題をさらに 1 年延長。
7.課題の概要(400 字程度)（この項は広報等に利用・掲載することがあります） 春日社旧社家である大東家には、同家に伝来してきた記録・文書や、明治期に散逸を懼れて収集された南都関係史料が、現在も多数所蔵されている（「大東家史料」と称す）。戦前の史料編纂所による史料採訪によってその一部は目録化されているが、同時期に調査された春日大社および辰市家・千鳥家など他の旧社家所蔵史料とは異なって、影写本・謄写本が作成されておらず、「大東家史料」の大部分はこれまで学界に紹介されていない。その全体像を把握して整理・調査・撮影を進めつつ、なかでも中世から近世初頭にかけての神事日記を中心に検討を加えて、今後の研究編纂に利用できるようにする。特に『大日本史料』第十二編の次冊以降の出版対象となる元和九年の『中臣祐範記』原本（従来は抄出本で知られていた最晩年の日記）については翻刻を行って、出版物に反映させる。
8.研究の目的(400 字程度) 2010・2011 年度の特定共同研究課題（中世）「春日大社所蔵「大東文書」の調査・撮影」により、大東家から春日大社へ寄贈された「大東文書」（中近世古文書約 300 点）の撮影・目録化を完了する予定である。この過程で、現在も大東家に所蔵される史料群「大東家史料」へと調査が進展し、中近世の記録や未整理状態の近世文書などの所在を確認した。1937（昭和 12）年の史料編纂所の『史料蒐集目録』では、記録類が約 45 点掲げられているが、いずれも影写本・謄写本は作成されず、具体的な内容を知る手がかりは少なかった。昨年

度までに把握したところでは、大東家には約 450 点の記録類が所蔵され、中世史料も少なからず含まれている。とうてい単年度にて調査を終了する分量ではないが、上記研究課題を一年間延長し、中世から近世初頭の神事日記に重点を置いて調査・撮影を行う。

9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度)

昨年度までの「大東文書」調査でも明らかになりつつあるように、興福寺・春日社関係の史料は廃仏毀釈の影響を受け、春日大社・旧社家・その他機関に分散しており、とりわけ近代になって大東家に収蔵された史料は、春日大社所蔵の文書・記録との一体的な検討が必要である。分量的・内容的にも現地側の機関・研究者との共同作業を欠くことができず、また共同研究として調査を進めることで、現地側での史料閲覧の便宜が図られる体制が取られ、今後の持続的な研究基盤となりうる。興福寺大乘院や春日社関係の史料は、写真帳の閲覧レベルでも地元では研究環境に不便を伴う点があったが、2011 年度までの共同研究も契機の一つとなり、漸次改善の方向にある（奈良県立図書情報館での史料編纂所撮影の春日大社所蔵史料の写真帳の公開計画）。

大部の「大東家史料」の全体像を把握するには、継続的な調査研究を進めてゆく必要があり、科学研究費などの外部資金の獲得に向けても、この共同研究を通して、史料保存と公開を見据えた協調的な研究グループの核を形成してゆくことができる。

10. 研究の実施計画

2011 年度までの段階では、表紙外題や形態・員数にもとづく「大東家史料」の仮の棒目録を作成している。2012 年度においては、まず史料の内容的な確認を全体にわたって粗く行うとともに、そこから中世から近世初頭の神事日記（日次記）を抽出して、重点的に調査・撮影・研究を行う。ついで、内容的に中世に関わる史料や、近世までには大東家に伝来していた史料を中心に、調査・撮影の対象を可能な範囲で広げてゆく。

経費執行の計画としては、東京から奈良への 2・3 回程度の撮影・調査にともなう出張旅費、奈良から東京への調査・打合せの出張旅費、画像データの整理や調書・翻刻の入力・校正にかかる謝金、作業・入架用の写真プリント作成費などを想定している。

11. 研究成果の公開計画

- ・ 目録・調書・解題などの『所報』『研究紀要』等への掲載。
- ・ 撮影画像の史料編纂所図書室での閲覧公開。将来的には、奈良県下の適切な機関においても写真帳の閲覧公開を目指す。
- ・ 『中臣祐範記』元和九年分を翻刻し、『大日本史料』第十二編で活用。
- ・ 将来的には、他の重要史料の翻刻および解題的研究の発表。
- ・ 奈良県周辺地域における博物館・美術館での展示への協力。

12. 共同研究員にもとめる役割

- ・ 「大東家史料」の調査研究。史料整理と目録・調書作成、および史料学的研究。
- ・ 奈良地域における歴史資料の保存と閲覧公開・展示。
- ・ 『中臣祐範記』の読解を中心とした、中世後期から近世にかけての南都地域史研究。